令和４年度　第３回　小牧市民健康づくり推進協議会　議事録

日　　時	令和５年２月 17 日（金）　14 時～15 時
場　　所	小牧市役所東庁舎 ５階 大会議室
出 席 者	**【委員】（名簿順）** 高野　健市　　小牧市医師会会長（小牧市民健康づくり推進協議会会長） 三輪　雅一　　小牧市医師会副会長 飯田　資浩　　小牧市歯科医師会会長（小牧市民健康づくり推進協議会副会長） 小島　英嗣　　小牧市民病院副院長 山田　勇　　小牧市老人クラブ連合会副会長 倉橋　伸子　　名古屋経済大学人間生活科学部教授 寺本　圭輔　　愛知教育大学保健体育講座准教授 土屋　一義　　小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会 大野　克弘　　小牧市区長会連合副会長 樋谷　瞳　　全国健康保険協会愛知支部 増井　恒夫　　春日井保健所長 新家　秀昭　　小牧市立小中学校長会 中島　早織　　保健連絡員役員 **【事務局】** 入江　慎介　　健康生きがい支え合い推進部長 江口　幸全　　健康生きがい支え合い推進部次長 永井　政栄　　健康生きがい推進課長 岩下　貴洋　　健康生きがい推進課　健康政策係長 小川　真波　　健康生きがい推進課　健康政策係主査 野口　弘美　　保健センター所長 白木　伸明　　保健センター所長補佐 森　　里加　　保健センター成人保健係長 宮田　祐子　　保健センター成人保健係主査
欠 席 者	木全　勝彦　　小牧市薬剤師会会長 青木　翔太　　地域包括支援センター係長
傍 聴 者	０名
配付資料	資料１　　小牧市における健康課題と取組みについて

１．開会

（１）あいさつ

・入江部長あいさつ

（２）新任委員の紹介

・土屋委員より自己紹介

２．議題

（１）小牧市における健康課題と取組みについて

・事務局より、「資料１：小牧市における健康課題と取組みについて」を用いて説明。

・質疑、主な意見は以下のとおり。

飯田副会長）

- 医療費全体に占める生活習慣病医療費の割合というのが県平均と比べると約２割程度高いというのは、小牧市で医療に携わる者としては胸を痛めている結果である。
- 生活習慣病、特に糖尿病の重症化予防ということで、糖尿病と歯周病というのは相関関係があり、糖尿病がよくなると歯周病がよくなる、また、歯周病がよくなると糖尿病もよくなる。また、逆に両方が悪いともっとだめになるという、いろいろな確固たるエビデンスがあり、医師会長、薬剤師会長、それから市とも協議し、啓発用のポスターを作成した。
- このポスターは、保健センターはもとより、様々な施設等に掲示し、糖尿病の重症化を防ぐためには歯周病の健診が必要であるということを啓発に活用できればと考える。
- 歯は歯、内科は内科、腎臓は腎臓というわけではなくて、やはりそれぞれ相関関係を持って悪くなったり、よくなったりするため、小牧市内の歯科医院、内科医院、それから薬局等にも貼っていただくとよい。
- 市歯科医師会のホームページには、糖尿病との連携ができる歯科医院の一覧を掲載している。クリックすると、該当の歯科医院の住所、場所がグーグルマップで分かるようになっており、こちらのマップも活用してもらえると良い。

高野会長）

- 医者の立場からは、市民が他人事のように思っていないようにするというのは、なかなか難しいと感じており、いつも頭を痛めているところである。

大野委員）

- 区長として色々仕事をしているが、特に周知の方法というのは今言われたように大変難しい問題と考える。
- 広報で周知すればよいのかというと、現実は、そういう訳にはいかない。
- ホームページやチラシも見ない。結局、本人の意識がなければ、どんなことをしてもなかなか広まっていかないように思う。本人の意識をまず変えなければいけないと思う。

土屋委員）

- 健診受診後、その結果をかかりつけ医に持っていった時に、どのようなリスクがあるのかを説明してもらうといいと思う。その前提は、やはり健診受診率を上げることで、第一義的にあると感じている。
- 先ほど大野委員が言われたように、広報で周知するだとか、ホームページ、チラシなどに掲載されていても、積極的に見るということは少ないと考える。
- かかりつけ医を受診し、この状態でこのままいくと腎臓が悪くなるとか、将来のことを含めた助言をしていただくと改善したいといけないという意識が芽生えるのではないかと考える。

高野会長）

- 一つのヒントとしては、健診の受診率を上げるということは、次につながることになるのではないかということ。市でもパンフレットを作ったりとか、広報に掲載したりということは重々存じているが、大野委員の発言が現状としてあるのではないかと思う。

山田委員）

- 受診率向上とよく言われているが、市では特定健康診査、人間ドック検診を高齢者向けに実施している。その内容が受診率の向上に関係すると思うため、内容を充実した

らどうかと考える。
・ 具体的には、内視鏡による胃がん検診の実施、脳ドックを追加することにより、受診率の向上につながれるのではないかと思う。

中島委員）

・ 主婦目線で一点、話をしたいが、家の中にいるとなかなか自分の欲しい情報を揃えることができないと感じている。
・ 令和５年４月から市広報が月１回になり、今まで２回あったのが、周知される回数が減ることになる。
・ 確かに健診を受ける機会は確保されているが、いつ健診があるのかも含めて、健康に関係する情報をしっかり届けていく必要があると感じるところです。
・ そこで、提案ですが、健康づくりに関する課が出しているパンフレットなどを回覧板で回覧し、気になる情報や欲しい情報が載ったパンフレットは一部、手元に取れるようにする。そうすると忘れないようになるのかなと考えた。
・ SNS は確かに便利だが、本当に必要な人ができていないような気がしており、紙で書いてあるものを読むほうが、直接入ってくるのかなと感じるところである。
・ 周知の仕方はいろいろとあるが、まずは、健診や講座などの企画、行事等を知ってもらい、その中から自分に必要なものを選んでいただき、健診を受けるなり、講演会に参加するなり、行事に参加するなり、それはその方が好きなように選べるようにすると良いと思う。
・ 現状では、情報も知らず、選ぶこともできない。「あ、こんなことやっていたの」ということを後で知ったらもったいないし、そういう話も実際に耳にする。
・ 家の中で過ごす時間が増え、人と触れ合うことも減ってきている中で、いかに情報を得るかと考えたときには、回覧板は各家庭に必ず回るし、そういう情報の周知の仕方もあるのではないかと考えた。

事務局（保健センター）

・ がん検診について、国の動向を注視する中で魅力ある検診について検討していく。

高野会長）

・ 市民目線からすると、魅力的な検診というのはよく分かるお話だが、実際に実施する立場からすると困難な部分もあると思っている。
・ 保健連絡員の中島委員の意見は、有効性や実現性を検討する必要はあるが、周知啓発を推進する一つの手法として意見いただけたと思う。

樋谷委員）

・ 協会けんぽでは、健康宣言という事業を小牧市と一緒に進めている。
・ 事業所の健康経営を推進しており、基本的に自治体と商工会議所等と保険者で連携していただくようにお願いしている。
・ 重症化予防とか糖尿病とかの専門的な分野になると、協会けんぽにも保健師はいるが、医師会との連携の難しさを感じており、小牧市の専門医、専門歯科はどこなのかという情報が分からないといった声を聞いている。
・ それはもちろん小牧市だけの話でなく、県内全域で当てはまることだが、そういう意味において、例えば対象者で重症化予防の治療の呼びかけが必要な方に対し、地域の専門医をお知らせするという手段がないというのが実情ではないかと考える。
・ そのため、重症化予防とか糖尿病の対策を実施するためには、医師会、歯科医師会、病院、保険者、小牧市が連携していくための協議の場が必要になるのではないかと考える。

・ 協会けんぽでは、健診の案内を年に１回、事業所に案内している。
・ しかし、聞いたことがないと言う事業所も意外にあると聞く。それは、担当者のもとには届いていても、そこで止まってしまい、社員にまで行き渡っていないということがある。
・ お知らせをしなければ、知らないままという状態が続いているということもあるし、健康経営の推進において、健診を受けっぱなしにしたら意味がないということで、強く広報しているところである。
・ 例えば、給料明細に健康情報の情報誌というか、協会けんぽだったり、生命保険会社だったり、市役所の情報を折り込んで、持って帰ってもらって家族の方に見ていただくという手段をとっている事業所もあり、そういったものを活用して情報を周知できると良いと思う。
・ SNS も良いが、使わない方は全然使わないと思うので、事業所を巻き込んだ周知もできると良いと思う。
・ 実際、小牧市には、頑張っている事業所が多いので有効かと思う。

高野会長）

・ 確かに市と協議をすると国民健康保険の加入者に傾きがちになってしまうので、協会けんぽ、職域に携わっている委員の意見はごもっともだと思う。

倉橋委員）

・ 生活習慣病対策として、行動変容につながるものとして、事例を報告したい。
・ 大学のゼミで昨年の実施した取組みだが、犬山市の高齢者を対象に野菜を食べようということで、リーフレットを作成した。
・ 先ほどから話があるようにリーフレットは、良い情報が１枚で書いてあっても、なかなか読んでもらえない。
・ そこで、対象者に合わせて、いつでも使える野菜を使った料理を３つのレベルに分けて、30 品、学生が考えた。
・ そのうえで、普通のリーフレットの形式のものと、30 品をＡ３の紙一枚にまとめ、チェック項目を入れたものを作成し、市と相談する中で、地域を限定して、高齢者の方に１か月間、試行していただいた。
・ その結果、誰でもできるような簡単な野菜料理を提供すると、野菜を料理に使う回数について有意に上がっていた。
・ 食の志向については、あまり変動がなかったが、例えばインスタント食品の回数が減るとか、野菜料理が今までだと週に１回だったものが週に作る回数が増えたというようなところがあった。
・ そこから考えてみると、リーフレットの内容をいかに分かりやすく、何か自分自身でチェックできるとか、自分で回数が分かるとか、そういったリーフレットづくり、媒体づくりが有効であり、これはそれほど難しいことではないと思う。
・ 例えば、本学には、管理栄養学科があり、より分かりやすいというものをご提供できるのではないかなと思う。
・ また、行動変容ということについては、先ほど土屋委員が言われたように専門医であるかかりつけ医の言葉というのは非常に対象者に響くと考える。
・ 更に有効な手段としては、それによって成功した方の声をお話しする。こういったものをうまく活用していくと、対象者全体には響かないかもしれないけれども、小さな単位での効果が積み上がっていけば、次につながっていくだろうと思う。
・ その部分については、ぜひ大学と連携をしていただければ、何か新しいアプローチを

かけられるのではないかと思うので、参考にしていただきたい。

高野会長）

・ 非常にいい提案だと思う。我々医者も波紋を大きくしなければいけないなと思う。

山田委員）

・ 名古屋市がフレイル予防のためのスマホアプリを公開したということが最近報道された。スマートフォンがかなり普及している現在、こういうスマホアプリを通じて自分の健康状態に目を向けて、健康寿命を伸ばしていこうという姿勢は見習うべきではないかなと思う。

高野会長）

・ 非常に参考になる意見が多く聞かれた。
・ 取り組めるところから取組んでいただきたい。

（２）小牧市健康づくり推進審議会について

事務局）

・ 本協議会では、本市の健康増進計画である健康日本 21 こまき計画 健康こまきいきいきプランの推進に向けた検討や健康増進事業に関する事項の協議をしてきた。
・ 健康生きがい推進課では、食育推進計画も所管しているが、この２つの計画は深く関連があるにもかかわらず、それぞれ別の会議体で推進しており、その連携が図れていないと状況であった。
・ こうしたことを踏まえ、両計画を整理、統合し、現在、新たな計画である小牧市健康づくり推進プランの策定に着手をしたところである。
・ そこで、計画の策定に合わせ、会議体についても整理することとし、来年度からは、本協議会を発展的に継承する「小牧市健康づくり推進審議会」を設置することになり、本協議会については、本日の会議をもって終了となる。
・ 今後、次年度に向けて、関係機関への就任依頼をさせていただく予定であるので、ご協力をお願いしたい。

※委員からの質問・意見なし

（３）その他

事務局）

・ 議事録の作成、公開の案内。
・ 次期計画の策定に向けた市民アンケートの経過報告
  ✓ 今回の調査は、Ｗｅｂ方式を採用
  ✓ 広報や市の公式ＬＩＮＥで案内し実施
  ✓ 回答期限としては、２月末（予定）
  ✓ 次年度以降、審議会においてアンケート結果の報告する予定

３．閉会